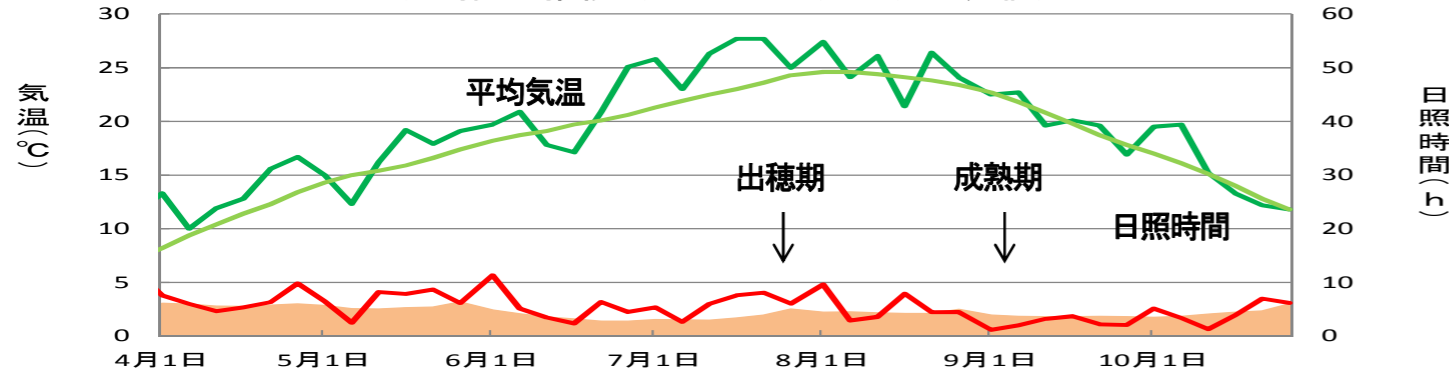


稲・麦・大豆かわら版

第 6 号 2018.1.9 発行
 栃木県塩谷南那須農業振興事務所
 0287-43-2318
<http://www.pref.tochigi.lg.jp/g55/>

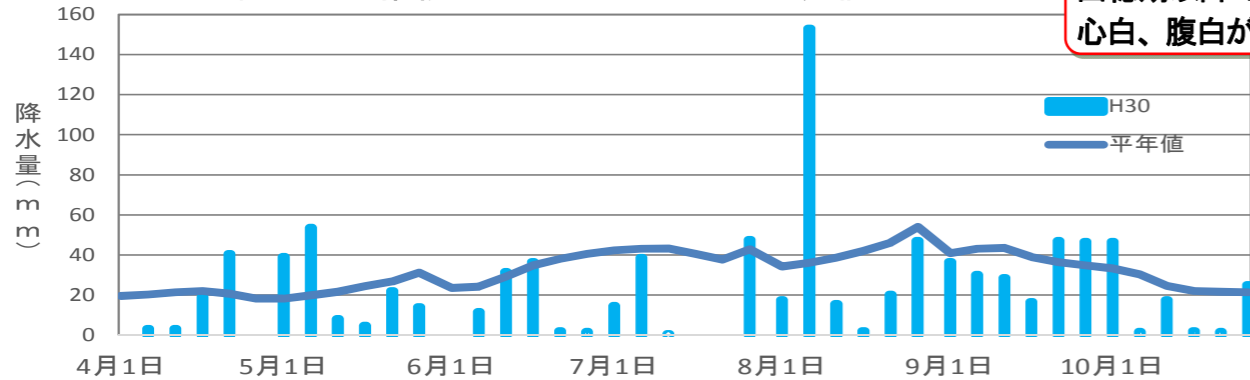
平成30年産稲作総括編 気象の概要と本年の生育状況

気温と日照時間の推移（アメダス（塩谷）測定値）



降水量の推移（アメダス（塩谷）測定値）

出穂期以降の高温により、
心白、腹白が増加



平年比	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
平均気温(平年差)	+2.5	+0.8	+0.8	+3.2	+0.8	±0	+0.8
日照時間	114%	121%	155%	167%	131%	65%	102%
降水量	54%	100%	44%	49%	106%	86%	61%

平成30年の米づくりを振り返る（早植えコシヒカリ）

- 育苗期～田植期（4月中旬～5月中旬）
 ◇育苗期間中の気象は、5月上旬がやや低温・寡照でしたが、全般には平年に比べ高温・多照・少雨で推移しました。
 ◇苗は平年より長く、病害発生は少なくなりました。
- 生育初期（5月下旬～6月上旬）
 ◇生育初期は、高温・多照・少雨で推移しました。
 ◇草丈は長く、茎数は分蘖体系で多く全量基肥で少なく経過しました。
 ◇関東甲信地方の梅雨入りは、平年より2日、昨年より1日早い6月6日頃でした。
- 生育中期（6月中旬～7月下旬）
 ◇6月中旬が低温で推移したものの、全般に高温、多照で推移した。降水量は20mmを超える降雨が3日あったものの全般に少雨でした。
 ◇関東甲信地方の梅雨明けは平年より22日、昨年より7日早い6月29日頃であり、観測史上最も早い梅雨明けとなりました。
 ◇出穂期は7/21～7/25頃（塩谷南那須地区）で、平均すると平年より7日程度早まりました。
- 生育後期・収穫期（8月上旬～9月中旬）
 ◇成熟期は9/2～9/4頃（塩谷南那須地区）で、平均すると、平年より7日程度早まりました。
 ◇県北の作況指数は1.03（575kg/10a）でやや多収（籾数平年並、登熟良）でした（県は102）。
 ◇管内の一等比率は84%（JAしおのや11月5日、JAなす南10月31日現在）。
 2等以下の主な格付け理由は、心白・腹白、カメムシ類、胴割粒でした。

平成31年産に向けて

～高品質でおいしい米を生産するには、
登熟の向上を図る必要があります、特に土づくりが重要です！～

- ①深耕（15cm以上）の実施
- ②土壌分析に基づく土づくり肥料（ようりん・ケイカル等）の施用
- ③良質有機物の施用
- ④透排水の改善の4つがポイントです。

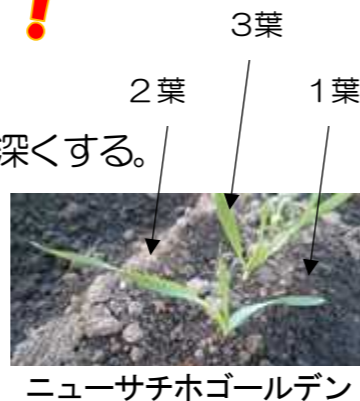
麦踏みを実施しましょう！！

麦踏みの効果

- ①地上部の過剰生育を抑制しながら、分げつを旺盛にし、根張りを深くする。
- ②茎葉汁液濃度を高め、耐寒性を増大させる。
- ③霜柱や凍結層による凍上害を防止する。
- ④茎立ちの早期化を抑え、春先の低温による幼穂凍死を回避する。

麦踏みの実施

- ◇麦踏みは2. 5葉を過ぎたら1回目、2～3週間後には2回目を実施します。（年内1～2回、年明後から茎立期直前までに2回程度）
- ◇しかしほ場水分が高い状態で踏圧を行うと、土を固めてしまい、生育に悪影響を及ぼすことがあります。踏圧はほ場の水分量に留意して行うことが重要です。
- ◇また、凍結層ができる地域では、凍結層形成前に必ず1回は行いましょう。



栃木県オリジナル品種「夢ささら」

県農業試験場において、大吟醸に向く県オリジナルの酒米品種を開発しました！
 県では、日本酒を製造する蔵元から、大吟醸に向く県オリジナル品種の育成が求められてきました。そこで、本県の栽培に適し、高い醸造適性を備える品種の育成に取り組みました。

品種の特性

- 耐倒伏性があり、イネ縞葉枯病に対して抵抗性がある。
- 高度精白が可能で、心白の発現率が高い。
- 山田錦に比べ、粒の大きさや収量は同程度
- 収穫期は、山田錦より13日程度早く、コシヒカリより16日程度遅い。
- 玄米を削る際に砕けにくいので、大吟醸酒の製造に向く。
- 醸造試験でも、吟醸タイプの清酒に向くと評価を得ている。

